

6. 室内清掃部門

2～4名で1チームとなり工程を分担していきます。作業カートを移動させ作業準備をして、指定されたエリアの範囲の机を拭き(1箇所)、乾式モップで掃き、自在ほうきでゴミを回収します。その後モップで拭き完了後、作業カートを戻して終了となります。

全部門終了後にアトラクショナルな種目として「あいさつ身だしなみコンテスト」がありました。

この種目の参加者は当日の希望者よりジャンケンで決定します。内容としては、競技用として会場に仮想の部屋(ドアのみ)が作られており、ノックして部屋に入り清掃業務の終了報告をして退出するまでの一連の動作などを客席からの拍手量で評価するといったものです。

今年度実施された7つの競技には、延べ約70名の方が参加されました。

それぞれの部門ごとに組合員の競技役員が、採点基準に従い順位を決定していきます。

個人種目では、競技者が作業する一つ一つの動作から緊張が伝わり、また支援者の方々も息をのむように心配げな様子で競技者を見守っており、各会場には独特な空気が流れていました。

団体種目の室内清掃には5チームが参加されました。個人競技の各種目が終了した後に行われることもあり、メイン会場で行われたことから、雰囲気も多少変わり客席からまたチームのメンバーからの声援も出て会場に一体感が生まれていました。

競技日程が全て終わった後に行われる表彰式では自分の名前が呼ばれると声を上げてガッツポーズをされる方、涙を拭きながら表彰台に上る方もおられました。

受賞の感想を聞かれると、普段、教わっている支援員の方に感謝の言葉を述べられていたのがとても印象的でした。



会員向け学習会が開催されました

難波特別支援学校支部 長谷川 美智代

6月の勉強会は、「家族でできる自立支援～今、何をすれば良いのか～」をテーマに、桃山学院大学教授で法人理事の石田易司先生をお招きし、ご講演いただきました。

先生のお話をお聴きしていると、毎回、大学の講義を受ける学生気分になり、突然投げかけられる質問にドキドキしながらも楽しい時間を過ごさせていただいています。

今回の勉強会も盛りだくさんの内容でしたが、その中でも「本人に主体性をもってもらうためには、ほめることが大事！」というメッセージが心に残りました。

さて、勉強会の方になりますが、『マズローの欲求5段階説』をご存知でしょうか。人間の欲求は、5段階のピラミッドのように構成されていて、低階層の欲求が満たされると、より高次の階層の欲求を欲するというものです。

第1階層は、「生理的欲求」(食べたい、寝たい等の本能的な欲求)です。次が、「安全・安心の欲求」(危険を回避したい、安全、安心な暮らしがしたいという欲求)です。それを満たすと「所属と愛の欲求」(集団に属したい、仲間が欲しいという欲求)が現れます。そして次に「承認の欲求」(他者から認められたい、尊敬されたいという欲求)が芽生えます。最後に5段階の「自己実現の欲求」(自分の能力を引き出し創造的活動がしたい、夢をかなえたい等の欲求)が生まれます。

私たちは、人との関係性の中で暮らしています。親子、家族、友達、職場や地域の人等々、たくさんの人と関係性を持ち、その中で自分を認めてくれる人が欲しい、人に認めて貰いたいという気持ち「承認の欲求」があります。人間関係は、時に煩わしいものですが、その中で発達していくものもあります。人と交わることによって、ほめられることがたまにあると、それが生きる糧になります。人と交わっている方が承認される機会が増え、生きていて良かったと思えるそうです。障がいのある人も同じように「承認の欲求」があります。ただ、障がいのある人たちは、活動の場が狭く、認めて貰える機会や場面が少なく、みんなと同じ人だと思えることも少ないとのことでした。

先生から「子どもを育てる時、ほめて育てたか、叱って育てたか」と問いかけがありました。子どもは、失敗して叱られると不安になり、次は失敗を恐れ行動